

# 就労継続支援B型事業所ウィール社

## 事業の総括

- 1 ノーマライゼーションとリハビリテーションの理念に基づき、利用者が地域社会の一員として自立生活ができるよう支援を行うとともに、利用者の主体的意欲を尊重し、経済的、文化的活動に参加できるよう支援した。
- 2 職員は、会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を遵守し、人権尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者の立場に立った福祉サービスの提供に努めた。
- 3 利用者個々に対する個別支援計画に基づき、必要な支援と仕事の提供を行い、経済的、社会的参加を促進した。
- 4 提供する福祉サービスの内容は、サービス利用説明書に基づいて行い利用者の自立生活と地域社会の一員としての自覚を促した。
- 5 地域社会と在宅者との結びつきを重視し、利用者・市町村・保健・医療およびその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する障害者支援施設こくふや福祉ホームコーラスこくふとともに「スタッフ丸」をスローガンとして総合的な活動を行った。

## 事業の概要

- 1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上をはかった。  
(1) 利用契約の状況は次のとおりであった。

定員20名に対し、24名の契約であり定員に対する稼働率は100.5%であり、実稼働率は87.1%であった。

平成26年3月31日現在

障害の程度 区分	該当 無し	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
契約者	10人	3人	4人	6人	1人	0人	0人	24人

- (2) 職種・職員定数など配置規準を遵守し、優秀な人材の確保と職員の資質向上のための研修を行った。

職員の配置状況は、次のとおりであった。

平成26年3月31日現在

職種名	所 長	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	事 務 員	生 活 支 援 員	職 業 指 導 員	医 師	看 護 師	栄 養 士	そ の 他	合 計
職員配置数	(1) 兼	1	(1) 兼	(1) 兼	4(1) 兼	(1) 兼			(2) 臨	6(4)

( )内は臨時または兼務職員

提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、日常行われる職場内研修他、下記の研修・会議等に職員が参加をし、知識・技能の向上に努めた。

研修内容	実施年月日	場所	人数	対象者
平成 25 年度新規採用職員研修会	2013/4/1 (2日)	障害者支援施設こくふ	1	指導員
中堅職員研修会 (第二日目)	2013/4/24 (1日)	サンピアセリーズ	1	指導員
中堅職員研修会 (第二日目)	2013/5/22 (1日)	サンピアセリーズ	2	指導員 サビ管
障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」 平成 25 年度第 2 回中央東地区連絡会	2013/5/30 (1日)	プラザ八王子	2	施設長 サビ管
平成 25 年度高知県身体障害(児)者施設協会総会	2013/6/5 (1日)	高知会館	2	所長 事務員
平成 25 年度社会福祉法人合同視察研修会	2013/6/10 (3日)	ANA 機体メンテナンスセンター他	1	支援員
中堅職員研修会 (第三日目)	2013/7/31 (1日)	サンピアセリーズ	2	指導員 所長
中堅職員研修会 (第三日目)	2013/8/28 (1日)	サンピアセリーズ	3	指導員 サビ管 事務員
平成 25 年福祉サービス苦情解決セミナー	2013/9/6 (1日)	ふくし交流プラザ	1	事務員
第 46 回中国・四国社会就労センター協議会施設長研修会	2013/9/12 (2日)	岡山ロイヤルホテル	1	事務員
第 43 回中国・四国社会就労センター協議会職員研修会	2013/11/28 (2日)	文化プラザカルポート 高知パレスホテル	7	所長 サビ管 指導員 事務員
第 29 回中国・四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	2013/11/12 (1日)	土佐御苑	2	所長 事務員
平成 25 年度高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	2013/12/4 (2日)	ふくし交流プラザ	1	サビ管
平成 25 年度高知県身体障害(児)者施設協会作業部会・ 高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	2014/1/10 (2日)	高知会館	5	所長 サビ管 指導員 事務員
平成 25 年度高知県成年後見制度講演会	2014/1/18 (1日)	グレース浜すし	1	サビ管
福祉経営セミナー	2014/2/14 (1日)	三翠園	1	事務員
高次脳機能障害者支援地域研修会	2014/2/17 (1日)	南国市役所	1	サビ管

		日)		
平成 25 年度中央東圏域障害者地域移行推進研修会	2014/2/18	(1 日)	中央東福祉保健所	1 サビ管
平成 26 年度社会福祉施設総合保険制度説明会	2014/2/25	(1 日)	ふくし交流プラザ	1 事務員
平成 25 年度サービス管理責任者等スキルアップ研修	2014/3/4	(2 日)	ふくし交流プラザ	1 サビ管
就労支援関係者講習会	2014/3/7	(1 日)	サンピアセリーズ	1 所長
高知県身体障害(児)者施設協会生活部会	2014/3/20	(1 日)	サザンシティホテル	1 所長

(3) 業務改善提案表彰制度を活用し、施設内・外の作業(業務)内容についての手法や手順、作業環境および安全管理に対して常に問題意識を持ちながら、改善を図り、利用者支援の向上と業務の省力化を図った。

平成 25 年度の改善提案件数は 1 件であった。

諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

#### ア 施設運営関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の授産及び活動予定</li> <li>・利用者の出欠状況、健康状態の把握、注意事項の確認</li> <li>・職員の動きと仕事の流れ、業務連絡事項、家族調整の予定、課題など</li> </ul>
職員会	月 1 回程度	12	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援会議(利用者全員対象、入所時、入所 3 ヶ月、6 ヶ月毎)</li> <li>・施設運営全般に関する連絡、報告、調整会議</li> <li>・出張報告・業務改善</li> <li>・利用者工賃の評価、決定その他</li> </ul>
安全衛生委員会	月 1 回	12	有	所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働安全衛生法第 19 条に基づく、職員の安全と保健衛生に関する協議</li> </ul>
調整会	月 1 回	11	有	所長 サービス管理責任者 事務員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ゾーンの近況報告</li> <li>・各ゾーンの行事予定</li> </ul>
虐待防止委員会	2 月 1 回	5	有	所長 事務員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こくふ福祉の村における利用者に対する虐待防止のため、虐待防止に関するマニュアル作成、研修検討、啓発活動の検討などを行なう</li> </ul>

#### イ 利用者サービス関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
-------	------	----	----	------	---------------

利用者との懇談会	月1回程度	12	有	利用者全職員	・利用者、所長、職員との懇談会 ・利用者からの意見・要望・質問等に対して主に所長が回答する相互意見交換
食事委員会	年2回	2	有	所長 利用者 栄養士 サービス管理 責任者	・食事に関する協議。利用者からの意見要望を聴き、毎日の献立や行事食に反映させる
こくふ地区施設運営委員会	相談受付月1回	12	有		・毎月1回、担当委員による相談受付
	定例会年3回	3	有	所長	・定例会は第三者委員4名が出席し、相談内容等を協議

2 利用者が安全で安心して利用することができる環境整備の充実とその維持管理に努めた。

(1) 施設・設備の充実とその維持管理に努めた。

施設内の整理整頓および清掃による環境美化に努めた。

四季の花を植え、快適で潤いのある生活環境を作るよう努めた。

室内の温度、湿度空調設備などの管理を適切に行い、快適な日常生活が送れるよう努めた。

冷暖房による室温管理に注意を払うとともに、感染症予防のための清掃・消毒および手洗い、うがい励行の促進に努めた。ノロウイルス対策としては、11月から3月までの毎週1回、次亜塩素酸ナトリウムを使用したモップかけ、雑巾がけを行った。

設備の保守点検は、自主点検や外部委託により実施した。

施設、設備の利用にあたっては、「施設利用にあたっての留意事項」を提示し、協力を要請した。

施設の修繕工事

喫煙所と自転車置場の整備を行い、老朽化、劣化を起因とする修繕に対応し、大事にならないよう早急な対応に努めた。

(2) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策の徹底をはかった。

非常災害時に備えて、地域の方々の支援を仰ぐため、地域住民との連携を深めるように努めた。

総合的な防災訓練、避難訓練を実施した。その内容は次のとおりであった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練		5/23										3/12	2
消火訓練		5/23										3/12	2
夜間通報訓練								11/26					1
図上訓練		5/23										3/12	2

夜間訓練													0
防災地震訓練							11/27						0

施設の内外に発生する傷害事故などの予防に努めた。

万一事故が発生した場合でも、速やかに事故防止対策委員会を設置できるよう、迅速に解決をはかるための準備に備えた。

施設設備の管理や防災上で重要な場所、または火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。

施設設備の点検は別に定める方法で行い、改善の結果は、施設全体に公表した。

業務上の各種マニュアルを整備して、利用者の生命の安全、保健衛生の徹底に努めた。

利用者の入所時には、「火災及び災害時の心得」を提示して理解と協力を求めた。

害虫駆除（鼠・ゴキブリ）を定期的に行った。

喫煙場所は屋根のある屋外とし、受動喫煙や分煙対応に努めた。

### 3 就労支援活動と自立生活へ向けての生活支援に努めた。

#### (1) 個別支援計画に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

利用者個人個人に応じた個別支援計画の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて、その見直しを行った。

作成した個別支援計画は、利用者およびその扶養義務者に十分な説明を行い、納得を得よう努めた。

職員は、利用者およびその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らしてはならないこととした。

利用者の入・退所に伴い、医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。

利用者と家族の関係など、利用者が抱えている悩み・不安の解決やその調整に努めた。

利用者の、日常生活や社会生活上の相談助言など、ケースに応じた必要な支援を行った。

利用者の健康状態に応じて、主治医のいる受診病院等に同行し、情報提供と共に健康維持、管理上の所見を得て支援した。

#### (2) 苦情解決の窓口は次のとおりであった。

当施設等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために、「こくふ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱（1か所）を設け、苦情等の受付の他毎月1回利用者の相談日を設けた。意見箱への投稿0件、個別相談は9件であった。

施設には のほかに次のような苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情の受け付け、解決にあたることにした。

苦情解決責任者	所長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

#### (3) 利用者の自治会（わかば会）の活動尊重

ウィール社は、地域で生活する利用者の方の生産活動の場である。社会人としての義務と責任を果たし、職員と対等の立場で意見交換をしながら、お互いに成長していくことを目標にして活動を尊重し支援している。行事の買物や銀行での通帳出し入れ等

の支援は行っているが、主体は自治会であることを常に意識した活動を促進している。

#### (4) 調理実習の実施

ウィール社の利用者食堂のガスや流し台を活用して、主に日々の惣菜等の調理実習を実施した。農作業の野菜活用で沢山の量が出来た時には利用者の方に試食してもらい評価を得て、調理の自信へと繋げることができた。

#### (5) 車椅子給付および修理手続き

高齢化と身体機能の低下、また障がいにより歩行機能が低下している方が多くなっている。支給された車椅子が安全に安心して乗れているかチェックを行ない、必要に応じて車椅子給付や修理手続きの支援を行った。

(6) 年間行事は、次のとおり行った。

時 期	行 事	備 考
平成 25 年 4 月 5 日	花見（鏡野公園）	香美市にある鏡野公園まで外出し、利用者と職員、コーポラスこくふ管理人と一緒に野外での花見弁当を楽しみ花見を行った。レクリエーションや散策等、思い思いに花見を楽しんだ。
9 月 21 日	こくふ福祉の村まつり	利用者、家族、職員、地域住民、ボランティア等が参加をし、地域交流の一環としての相互理解を深めた。
10 月 11 日	日帰り研修 （四万十町 海洋堂ホビー館四万十）	四万十町にある海洋堂ホビー館を見学し、地域の方が作る食事を取り、いつもと違う雰囲気を楽しんだ。道の駅にも立ち寄り、普段作業に従事している利用者の気分転換をはかった。
11 月 17 日	南国ボランティア DAY	地域交流活動の一環として、希望者が参加をした。ウィール社は焼き芋とポップコーンを販売した。
12 月 26 日	クリスマス・忘年会	地域の方を招待し、ゆっくりと食事を取り、ゲームやカラオケ、ボッチャ等のレクリエーションを楽しんだ。一年間の労をねぎらい互いの親睦を深めた。

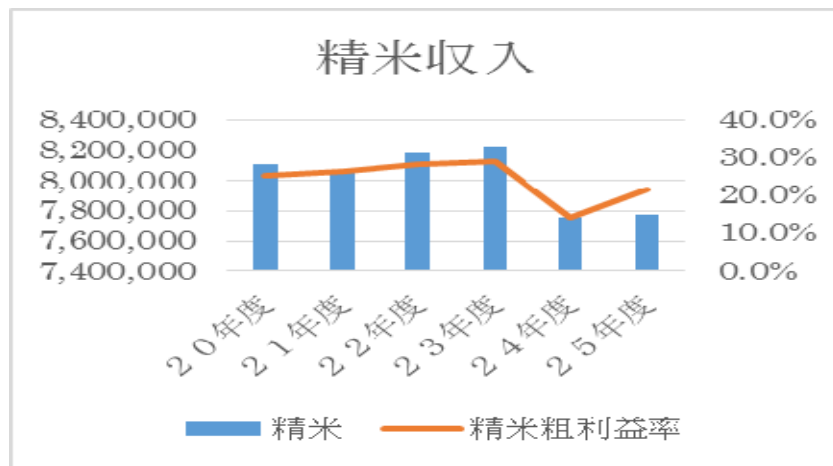
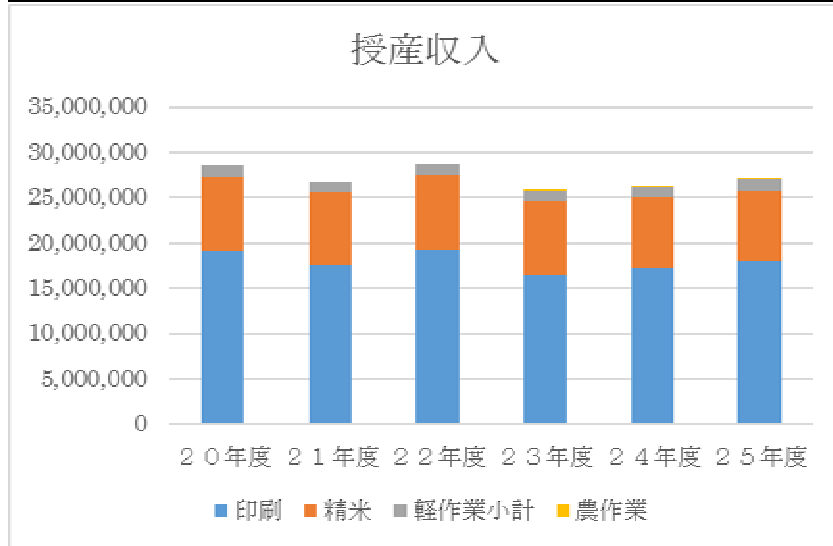
## 4 就労支援活動

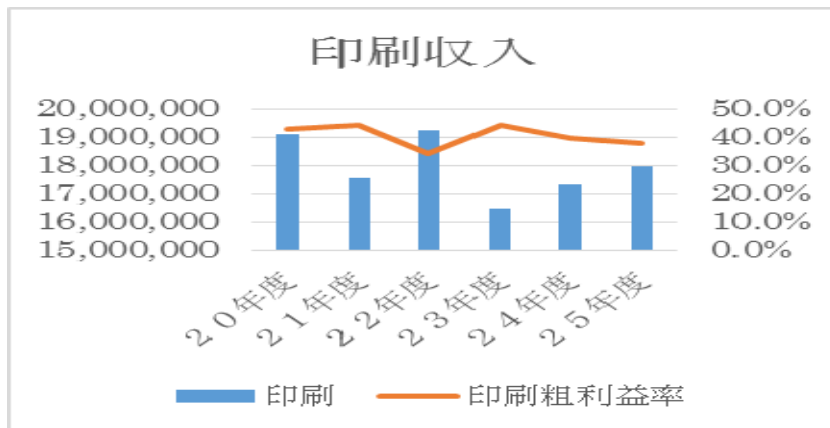
### (1) 授産事業売上実績

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
印刷	19,138,787	17,573,006	19,254,300	16,457,107	17,348,249	17,996,477
精米	8,111,920	8,069,040	8,183,600	8,226,060	7,760,720	7,773,551
煎茶	336,381	337,673	362,460	354,667	318,542	347,175
浜幸	278,140	214,158	152,426	95,426	87,462	48,800
ミニバック	451,393	401,856	358,899	224,685	174,891	382,516
高生連	64,540	67,762	64,600	57,052	56,491	60,146
和光製紙	52,980	115,521	62,833	50,096	106,942	232,261
やまくに						110,255

ハイワ原紙			118,368	240,000	316,800	
その他	80,070	27,515	168,316	41,781	72,417	49,050
軽作業小計	1,263,504	1,164,485	1,287,902	1,063,707	1,133,545	1,230,203
農作業				14,920	66,906	72,880
合計	28,514,211	26,806,531	28,725,802	25,761,794	26,309,420	27,073,111

印刷粗利益率	42.9%	44.2%	34.4%	44.3%	39.8%	37.8%
精米粗利益率	25.6%	26.5%	28.3%	29.0%	14.4%	21.6%





## (2) 軽作業

### 作業内容

個別支援計画に基づき軽作業を行っている利用者は、ウィール社を利用されている24名中15名であり、全体の約3分の2にあたる。これらの利用者の障害は脳血管障害や、頭部外傷等による右片麻痺、左片麻痺、四肢障害、脳性麻痺による両下肢障害、知的障害、精神障害等、それぞれの障害特性を持っている。この障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施した。障がいのカバー、補助する手立てとして作業用自助具（滑り止めシート、片手シール貼り用自助具等）の活用や工夫をし作業効率や流れが円滑になるよう努めた。

作業内容としては、衛生用品、ティッシュ、砂糖、日本茶の袋詰め、ゼリーの帯かけ、割りこ作業、石灰の袋詰め、米の精米、販売等であった。

### 作業内容別の状況

#### ア ミニパック（衛生用品）

前年度より作業種類、量ともに注文が多く、大幅な売上増となった。

#### イ 高生連（砂糖）

昨年より若干の売上増となった。

#### ウ 浜幸（ゼリー）

6～8月期間商品のゼリーの帯掛け作業の注文が大幅に少なく、収入減となった。

#### エ 和光製紙（ティッシュ）

1週間に2回の受注を3回に増やした時期もあり、過去5年間では最も高い売上となった。

#### オ やまくに（いりこ）

平成25年度より始まった割りこの新しい作業。平成24年度で終わったヘイワ原紙（紙袋作業）に代わって新たな収入源となることを期待している。

## (3) 精米作業

昨年度は、米の価格値上げで一般ユーザーからの受注減となり、さらに利益を圧迫した。平成25年度は原価が安定し売上、利益ともに回復しつつあるが、23年度までの売上状況には至っていない。

## (4) 印刷部門

### 作業内容

受注した印刷物は、編集科での入力・デザイン・編集・校正作業を経て、印刷科で





1月																
2月	25									2						2
3月	23	1					1									
計	293	5	1				6			2	1		2			5

## 6 支援実施の状況献立

### (1) 利用者の状況

#### ア 利用者性別・年齢別構成状況

(平成26年3月31日現在)

区 分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	3	1	4
30～39歳	2	2	4
40～49歳	2	1	3
50～59歳	5	1	6
60～69歳	6	1	7
70歳以上	0	0	0
計	18	6	24
平均年齢	49.9歳	43.0歳	48.2歳

### (2) 基本的な日常作業訓練の指導・支援に努めた。

作業活動の指導方針は、個別支援計画に基づき実施した。

個人個人の実態を的確に把握し支援を行った。

### (3) 医療、疾病の予防、健康管理とその保持に努める。

#### 医療サービスの状況

ア 時季に応じて自己管理の徹底を促した。

イ 定期健康診断を行い、未受診者のないよう配慮した。

ウ 加齢に伴なう疾患（生活習慣病など）の予防とその対策に留意した。

エ 保健衛生や健康に関する相談を受け付けた。

オ 通院や入院は利用者やその扶養義務者の責任において対応の依頼をした。

カ インフルエンザと施設内感染症発生時や、季節の変わり目などにおこりがちな集団疾患が発生したときには、施設だけでは対応困難が予想され、扶養義務者等の支援と協力を依頼した。

利用者が専門医師等の診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院、または次の協力病院において受診、治療を依頼した。

協力病院名	診療科目	所在地
J A高知病院	内科・外科・他	南国市明見字中野526-1

内部疾患だけでなく、未服薬者も加齢とともに血圧上昇がある。また、健康診断結果などから見ても、成人病予備軍となっている。

ア 時季に応じ自分の健康は自分で守るという意識付けを行った。

イ 健康に関する個人的な情報や疑問に対して、医師や看護師に気軽に相談できるよう努めた。

ウ 月に一度、定期的に体重と血圧測定を実施し、健康状態と変化の把握に努め、対応をした。

施設は就労支援活動を主とする場である。医療対策は、家族の対応や協力を得て行った。

(4) 適切な食事の提供と健康の保持に努めた。

食事は外部委託しており、委託先業者の調理により提供した。

季節感ある食事や行事食、外食の工夫をして、食事の楽しみができるようにした。

また、所要摂取カロリーは、1食600kcalを基準とした。

食品、調理場、その他器具などの衛生管理の徹底をはかった。

給食費、栄養量、保健、衛生および食事摂取状況

ア 平成25年度各月の栄養量は、次のとおりである。

区 分	エネルギー - Kcal	蛋白質 g	加減 mg	鉄 mg	1人当量 ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
平成25年4月	559	22.6	125	3.3	189	0.31	0.28	34
5月	592	23.4	137	2.8	208	0.29	0.27	36
6月	562	23.3	121	2.7	180	0.31	0.27	37
7月	546	21.2	131	3.1	290	0.28	0.33	35
8月	531	21.7	111	3.0	174	0.31	0.23	33
9月	536	21.6	100	2.3	174	0.27	0.25	29
10月	560	22.6	130	3.7	205	0.27	0.26	28
11月	550	22.3	123	2.6	240	0.30	0.29	38
12月	559	22.0	116	3.4	172	0.28	0.25	32
平成26年1月	550	21.7	112	2.7	209	0.31	0.27	32
2月	530	21.3	135	2.6	181	0.23	0.27	32
3月	544	21.8	103	2.6	175	0.32	0.25	26
平均	552	22.1	120	2.9	199.8	0.29	0.27	32.7

イ 嗜好の把握と献立反映状況

把握方法 嗜好調査 年 3回  
 残滓調査 年 246回  
 嗜好カルテ 有

ウ 食事委員会の実施状況

年2回、所長、利用者、サービス管理責任者、管理栄養士、委託先業者職員が参加をし実施している。

エ 食事環境に対する配慮として、季節に応じた献立や行事の飾り付けをし、食事が楽しく食べられるように工夫している。

オ 献立内容にあった食器の配慮を行い、食材にあった食器・丸皿・小鉢等を使用し食事に変化をつけている。

カ 栄養指導の状況

選択食の聞き取りや嗜好調査など、できる限り希望に沿った対応をしている。